

会員便り

堀井 大河 (平成23年 工業化学科卒)

故郷岩城町(現在は由利本荘市岩城)は日本海を臨み、鳥海山の姿が猛々しい、美しく力強い郷です。近年は少子化高齢化の進行もあり、母校の道川小学校は今では廃校となり、跡地には高齢者向け介護施設が建設されております。帰郷の折に母校のあった場所を顧みては、郷里の行末に憂いを隠すことは困難でありましよう。故郷秋田のために自分に何ができるか。まずは小さなことから行動しよう一念発起したところ、東京秋工会への入会がその第一歩であると確信しております。



さて、私自身のことを紹介すると、幼少の頃より父の道場で空手道に励み、県内で空手道部のある高校で父も通った秋工に入学しました。化学好きもあって工業化学科に進学しましたが、当時は全作業服で統一されていたために憧れの白衣を着る機会はありませんでした。2つ下の弟は機械科に入り、現在は地元で消防士として活躍しております。兄として誇りに思うと同時に地元を守ってくれていることに非常に感謝しています。縁あって体育会推薦で東洋大学に進学し同時に空手道部に入部、ここでも部活動に心血を注ぎました。上下関係が厳しく大変でしたが最終的には主将として部を牽引し、一定程度の成長を実感しました。大学卒業後は海上自衛隊に入隊し、日本各地の航空基地で勤務しました。約6年の自衛隊生活は楽しい日々でしたが、自分が本当にやりたいことを考慮するよい期間でもありました。

そして行政書士試験に挑戦しようと考え、自衛隊で勤務しながら勉強し複数年受験を経て無事合格することができ、令和5年1月15日より神奈川県相模原市にて行政書士事務所を開業しました。全くゼロからのスタートですが、遺言や相続手続きの業務に携わり、お客様の人生に深くかかわることが出来る行政書士という仕事に大きなやりがいを感じております。開業したばかりで東奔西走の日々ですが、この挑戦を機に多くの人と出会うようになり、これまでとは明らかに変化した自分の人生

に心が躍っております。

たった30年の人生ですが、幾度も困難や挫折を味わいました。その度に自分自身を奮い立たせることが出来た理由を考えた時、『質実剛健』その言と学生時代に空手道に情熱を注いだ経験が大きく寄与していることは間違いありません。そして何よりも、秋工で出会った仲間存在には何度も助けられ、彼ら一生の友人達と母校を同じくすることに深い喜びと高い誉を感じてなりません。

目黒 重昭 (昭和58年 土木科卒)

昭和58年に土木科を卒業した目黒重昭と申します。先日、地下鉄に乗った際、車内の広告で「東京ディズニーランド40th」と書かれているのを目にしました。昭和58年は、東京ディズニーランド開業の話題で盛り上がっていた年でした。この広告で卒業後40年経過したことを偶然知ることができました。

私は高校を卒業してすぐに就職しました。長男である私は、秋田県内での就職を希望していましたが、就職先が見つからず、親戚の紹介により、本社が宮城県にあるコンクリート製品メーカーの東北ポールという会社に就職しました。コンクリート製品の営業や親会社の研究施設への出向が主な仕事内容でした。この会社で約6年間働き、その後24歳の時に現在勤めているショーボンド建設に転職しました。この会社では、東北支店で25年間、東京で5年、大阪で2年、そしてまた東京に戻り2年が経過しました。思いがけなくも、秋田県を飛び出し、仙台の会社に勤め、更に全国ネットの会社で働き、東京まで来ることができたことは、私にとって視野が広がった良い経験でした。

現在勤めている会社は、土木・建築構造物の補修を専門とする建設会社です。私は34年前に、補修が将来的に重要な分野になると感じ、転職を決意しました。しかしながら、当時は新築・新設が主流で、補修の分野はとても地味な存在でした。34年が経過した現在は、高速道路のリニューアルやマンションの大規模修繕などが当たり前になり、補修に対する認知度が上がり身近で一般的なものになりました。私は土木科の卒業生ですが、入社後に建築分野を担当するようになりました。独学で

建築学を勉強し、やがては一級建築士の免状も取得することができました。更に補修学については、元々教科書も少なく、補修工学=(イコール)経験工学的要素が強く、勤続年数に応じて技術力が向上してきたように感じます。会社の先輩や業界の方々、そしてお客様からいただいた指導に恵まれ、これまで楽しくサラリーマン生活を過ごしてきました。そして今も、充実した毎日を過ごせています。

今後については、60歳で定年となりますが、定年再雇用制があるため、65歳まで働くことができる可能性があります。現時点では、何歳まで働くかなど考えていませんが、定年になった時に再考するつもりです。健康に気を配りながら、シルバー世代よりも輝きを持つプラチナ世代になれるよう、まだまだ頑張りたいと思っています。

最後に、この度は同窓会誌の寄稿の機会をいただき、心より感謝申し上げます。今後とも、秋工東京会のますますの発展と会員の皆様方のご健康とご多幸を願っています。

写真は2020年の正月に訪問したUAE(アラブ首長国連邦)での1枚です。ドバイモールにて。この旅行のあと間もなくコロナ禍が始まりました。



嶋田 京一 (昭和63年 地質工学科卒)

地質工学科を卒業して三十年余りが経ちました。卒業後すぐに上京、気がつけば東京での暮らしが故郷秋田で過ごした時間よりも長くなりました。

じつは中3の夏休みまでは南高を目指して受験勉強していたのですが、普通のサラリーマンになるイメージがいまいちわからず、手に職系の仕事に漠然と憧れているうち、秋頃になって突然に地質工学という響きにビリビリと来て秋田工業へ。が、結局卒業時にもまだ就職観がかたまらず、祖母がこんな学校があるよと教えてくれたのが観光の専門学校でした。何故それを選んだのかは今となっては思い出せないのですが、上京して専門学校を卒業してからはずっと旅行業界に身を置いています。

コロナ禍の前に事業を日本人向けの旅行企画から訪日外国人向けの東京都心の観光サイクリングツアーにシフト、軌道に乗らないうちにコロナ禍により需要がほぼ消滅。この3年近くをどうにかやり過ごし、昨年10月からの観光来日復活にともない需要が復活、なんとか光明が見えてきた思いです。

会員便り

工業高校とはまったく畑違いですが、結局は自分の経験と踏ん張りで飯を食っているあたりは、本質では何やらつながっているのかも勝手に納得しています。そんな中、ご多分にもれず親の介護が発生し、帰省することが増えました。ここ何十年も年にいちど正月くらいかそれも滞りがちだったのが、去年はほぼ毎月、一時は毎週というような日々がありました。

そうしたとき、はからずも故郷秋田の四季の移り変わりに触れることとなり、子供の頃遊んだあの場所この場所を、時間を見つけては巡っています。そうしているうちに、足はいつのまにか母校の方へ。新しくなった敷地の中に昔の校舎や体育館の面影を探し、部活後にいつも寄った、三国や秋工前茶屋がなくなっていることには寂しさを感じましたが、これも時代の流れなのでしょう。

いつか秋田でゆっくり暮らすことを夢見ながらもまずはまだまだ東京で踏ん張っていこうと思っています。



労働安全コンサルタント

登録No: 土 第1213号

小野 鐵雄

(昭和38年 土木科卒)

〒279-0011 千葉県浦安市美浜5-6-1003

TEL&FAX. 047-352-8925

携帯. 090-6566-7936

E-mail: safety-con_tetsuo_o@pa2.so-net.ne.jp

信頼で夢をカタチに



株式会社

シブヤ建設工業

代表取締役 渋谷 守寿 (平6上)

〒010-0802 秋田市外旭川字三後田266-1 TEL 018-868-0655 FAX 018-868-0659